

平成24年(平成23年度事業)美瑛町まちづくり評価総括表

番号	事業・施策	所管	区分 ※	総合 評価
1	医療費扶助事業【乳幼児等医療費助成事業対象範囲拡大】	住民生活課	政	継続
2	美瑛町国際観光推進協議会補助金	商工観光課	政	継続
3	既存公園での特性を生かしながら、地域の個性を生かした再整備計画	都市建設課	政	継続
4	スクールバス購入事業	学校教育課	政	継続
5	広報活動事業	総務課	事	継続
6	美瑛高等学校教育環境振興補助	政策調整室	事	継続
7	日本で最も美しい村推進事業	政策調整室	事	継続
8	軽自動車税新課税標識の導入	税務課	事	継続
9	パスポート交付事業	戸籍年金係	事	継続
10	健診事業(前立腺がん検診費用補助)	保健福祉課	事	継続
11	高齢者団体支援事業	保健福祉課	事	継続
12	除排雪サービス事業	保健福祉課	事	継続
13	子ども通園センター運営事業	保健福祉課	事	継続
14	自然の村管理運営事業	商工観光課	事	見直し
15	四季の交流館管理運営事業	農林課	事	一部 見直し
16	エゾ鹿被害防止緊急捕獲事業	農林課	事	継続
17	道路維持修繕事業	都市建設課	事	継続
18	アグリパートナー協議会負担金	農業委員会	事	継続
19	学童保育管理運営事業	学校教育課	事	継続
20	人づくり育成事業	生涯学習課	事	継続
21	人間ドック・生活習慣病予防健診等事業	美瑛町立病院	事	継続
22	北瑛旭第6線線道路改良舗装事業	都市建設課	公	
23	下水処理場整備事業(改築・更新)	水道課	公	
24	図書館建設事業	生涯学習課	公	

※ 政:政策評価 事:事務事業評価 公:公共事業評価

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 住民生活課 国保医療係

(政策評価用)

主要施策名	医療費扶助事業【乳幼児等医療費助成事業対象範囲拡大】			
総合計画の位置付け	大分類(章)	第2章 施策の大綱		
	中分類(節)	第2節 思いやりのある社会福祉のため		
	小分類	6 地域医療 (1) 社会保障医療の給付		
施策の概要	これまで小中学生については入院のみ対象としていた助成範囲を、外来を含め助成対象とし入院・外来に係る保険診療分医療費の全額助成を行う。			
施策を必要とする理由	外来診療分まで全額助成することにより、乳幼児等(小・中学生含む)の罹患に対して早期受診と早期治療を促進し、子育て支援の一環として子育て世代の財政負担軽減を図る。			
評価	評価項目	評価	点	評価のコメント
	施策の必要性	5	4・3・2・1	現在の経済状況等から有効性は有る
	施策の達成度	5	4・3・2・1	受給資格の交付状況等、漏れなく良好
	施策の効果	5	4・3・2・1	子育て世代への財政負担軽減等に効果的
	社会情勢等変化への対応	5	4・3・2・1	道の要綱基準以上に町独自で行っている
	町民ニーズがあるか	5	4・3・2・1	今後も続けてほしいとの要望がある
	合計		25	点
現状分析	町内に在住している就学前児童、小・中学生を対象とし助成を行っているが、現在は住基と連動した受給資格者の把握を行っており、受給漏れ等なく、良好と思われる。また、医療費に対し直接的費用助成のため、子育て世代への財政負担軽減は、効果的と判断できる。			
改善を要する内容				
備考	現在、旭川圏内(旭川医師会)及び富良野圏内(富良野医師会)の範囲内ではしか受給者証の使用が出来ない。全道で使用可能とするためには、社会保障支払基金に支払業務委託の検討が今後、必要。			
総合評価	※担当課では記入しないこと (5) 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合			

※ 主要施策名には、総合開発計画の主要施策名を記入のこと

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 商工観光課 観光振興係

(政策評価用)

主要施策名	美瑛町国際観光推進協議会補助金			
総合計画の位置付け	大分類(章)	施策の大綱		
	中分類(節)	元気のある産業経済のために		
	小分類	商工観光課 観光の振興		
施策の概要	アジア諸国に対して、観光PR、人的交流、経済交流等を進めることによって、日本で最も美しい村連合の加盟町である「丘のまち びえい」の様々な地域資源を諸外国に啓発している、協議会へ助成			
施策を必要とする理由	東アジアを中心にアジア諸国との交流・連携を図り、東アジアにおける観光ニーズ等を把握し、北海道観光の可能性を調査することにより、新たな観光を模索する。また、本町の農畜産物のPRを行い、人的・経済的交流の可能性も探る。			
評価	評価項目	評価	点	評価のコメント
	施策の必要性	⑤	・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1	町民の国際理解の促進を図ると共に、美瑛豊かな農村景観を諸外国に広報する。
	施策の達成度	5	・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1	7月韓国より来町、8月韓国訪問、12月台湾訪問、1月中国大連旅順口区政府来町する等、交流が図れた。
	施策の効果	5	・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1	3カ国の団体と交流を行ったことは、本町の広報がなされ、また国際交流機会の拡大も図れた。
	社会情勢等変化への対応	5	・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1	社会情勢を把握し、情報収集・提供を行った。
	町民ニーズがあるか	5	・ ④ ・ 3 ・ 2 ・ 1	関係機関との協議を通して、町民ニーズの把握を図った。
	合計	21点		
現状分析	自治体主導で進めることで、特性を生かした幅広い交流を行い、双方の友好親善と相互理解を推進させたことは、今後の地域産業の活性化にもつながる可能性がある。			
改善を要する内容	今後の国際交流については、一般町民参加も検討。 現在、東アジアを中心に交流を図っているが、並行して東南アジアも検討。			
備考	平成25年度より、活性化協会の事業となる見込み。			
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・ 継続 ・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合			

※ 主要施策名には、総合開発計画の主要施策名を記入のこと

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 都市建設課 都市施設係

(政策評価用)

主要施策名	既存公園での特性を生かしながら、地域の個性を生かした再整備計画						
総合計画の位置付け	大分類(章)	第2章 施策の大綱					
	中分類(節)	第3節 生きいきとした暮らしづくり					
	小分類	(5) 公園・緑地					
施策の概要	・公園維持管理事業(遊具の老朽箇所の整備、)(毎年)・既存公園の整備						
施策を必要とする理由	・町内の健全な発展と住民の心身の健康の保持促進並びに災害に対する安全性の確保に資する整備を行う。						
評価	評価項目	評価	点	評価のコメント			
	施策の必要性	5	4	3	2	1	老朽化、遊具等の安全確保
	施策の達成度	5	4	3	2	1	本事業は着手年であり、他事業で1箇所整備済。平成27年度まで段階的に取り組む。
	施策の効果	5	4	3	2	1	安心かつ快適に憩の場、集いの場、児童の遊び場として利用できる。
	社会情勢等変化への対応	5	4	3	2	1	国の施策事業であり、平成23年度に事業認可済
	町民ニーズがあるか	5	4	3	2	1	公園に求める各地区の町民ニーズを十分把握する。
	合計	21			点		
現状分析	・遊具等について、少子化、住民の高齢化によるニーズにあった施設の廃止等の検討が必要						
	・昭和50年代に整備された街区公園(当時児童公園)の再整備が必要。						
改善を要する内容	・町内で1番早く整備された中町公園のリニューアルをまちづくり交付金事業で実施 (H22・23年度)						
	・老朽化した公園施設について再整備が必要(なかよし公園改修H23~25予定、ことぶき公園H24~26予定、憩ヶ森公園H24~H27予定等)						
備考	平成22度に公園施設長寿命化計画を策定した。平成23年度以降、市街地内の街区公園などの整備を計画的に実施する。公園施設のバリアフリー化事業などの補助事業を活用する。						
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・ 継続 ・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 主要施策名には、総合開発計画の主要施策名を記入のこと

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 学校教育課 バス運行係

(政策評価用)

主要施策名	スクールバス購入事業						
総合計画の位置付け	大分類(章)	第2章 施策の大綱					
	中分類(節)	第3節 生きいきとした暮らしづくりのために					
	小分類	2 住環境 (7)交通					
施策の概要	地域における児童生徒の通学条件の緩和と住民の交通手段の確保のため。						
施策を必要とする理由	走行距離40万キロ超、使用年数11年を経過した損傷の激しいスクールバスを更新して安全運行を確保する。						
評価	評価項目	評価	点	評価のコメント			
	施策の必要性	⑤	4	3	2	1	児童生徒及び地域住民の交通手段の確保
	施策の達成度	⑤	4	3	2	1	更新により安全運行が確保されている
	施策の効果	⑤	4	3	2	1	更新することで利用者が安心して利用できている
	社会情勢等変化への対応	⑤	4	3	2	1	地域の要望に応じた路線の改善・増設を行っている
	町民ニーズがあるか	⑤	4	3	2	1	交通手段の確保や安全運行が必要である
	合計	25 点					
現状分析	地域住民の要望に応え、児童生徒の乗車時間を考慮した運行路線の増設を行い、安定した運行の安全性を確保している。						
改善を要する内容	各路線毎の利用者数に合わせた車両購入の検討が必要。						
備考							
総合評価	※担当課では記入しないこと (拡大)・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 主要施策名には、総合開発計画の主要施策名を記入のこと

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 総務課 広聴広報係

(事務事業評価用)

事業名	広報活動事業			事業年度	昭和28年度～		
事業目的	広報誌を通じて、町民に行政や暮らしに関する各種情報などを幅広く周知し、住民生活の利便性と行政への関心を高める。						
事業概要	毎月1回、町広報誌を発行し、各町内会の協力を得て全戸に配布している。						
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考
	歳出	総務費	総務管理費	広聴広報費	需用費	4427	千円
					役務費	357	千円
					備品購入費	62	千円
							千円
	計					4,846	千円
財源内訳	国庫支出金・道支出金					千円	
	地方債					千円	
	その他特定財源					千円	
	一般財源				4,846	千円	
町民満足度	把握の有無	あり・なし		把握の対象者	町民		
	把握の対象設定の方法	全町民・事業対象者全員・事業対象者の一部・その他					
	把握の手法	アンケート・聞き取り・窓口対応・その他					
	把握の内容	ご意見箱、ご意見メール及び配布時の意見聴取					
要望	要望の有無	あり・なし		要望内容	文字の大きさ		
評価	評価項目	評価点			評価のコメント		
	事業の必要性	5・4・3・2・1			町民に広く確実に行政情報などを提供する手段として必要である。		
	事業効果	5・4・3・2・1			各種の情報提供により町民の理解と関心を高めている。		
	町が実施することの妥当性	5・4・3・2・1			行政情報の発信手段として町が実施すべき事業である。		
	事業の効率性	5・4・3・2・1			即時性のあるものは、防災無線・町ホームページ等でお知らせをするとともに、併用して効果的に情報を発信している。		
	町民ニーズの把握	5・4・3・2・1			ご意見箱、ご意見メールなどでニーズを把握している		
	合計	22点					
改善を要する内容	見やすい紙面の更なる改善策として、文字フォントを拡大する。						
備考	平成23年度から2色刷りにして紙面を印刷した。						
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 政策調整室

(事務事業評価用)

事業名	美瑛高等学校教育環境振興補助	事業年度	平成18年度～				
事業目的	少子化による生徒減少で統廃合の検討がされている美瑛高等学校の生徒募集や就学、生徒会活動に支援を行い、地域の教育環境振興を図る。						
事業概要	美瑛高等学校教育振興後援会が行なう1)生徒募集の支援、2)就学支援、3)地域振興に係る支援 ための事業に対し助成を行なう。						
事業決算額	款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	総務費	総務管理費	地域振興対策費	負担金補助及び交付金	800 千円	
						千円	
						千円	
	計					800 千円	
財源内訳					千円		
		国庫支出金・道支出金			千円		
		地方債			千円		
		その他特定財源			千円		
		一般財源			800 千円		
町民満足度	把握の有無	(あり) ・ なし		把握の対象者	事業対象者		
	把握の対象設定の方法	全町民 ・ 事業対象者全員 ・ 事業対象者の一部 ・ その他					
	把握の手法	アンケート ・ (聞き取り) ・ 窓口対応 ・ (その他)					
	把握の内容	魅力ある学校づくりや地域でのボランティア活動などについて把握					
要望	要望の有無	(あり) ・ なし		要望内容	継続要望		
評価	評価項目	評価点			評価のコメント		
	事業の必要性	(5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1			本町の人づくりに重要な位置付けを持つ美瑛高校の教育振興に対し、町で支援していく必要がある。		
	事業効果	5 ・ (4) ・ 3 ・ 2 ・ 1			H18補助開始以降、生徒募集に効果を上げている。		
	町が実施することの妥当性	(5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1			町内唯一の高等学校の教育振興に対し、町の支援は妥当である。		
	事業の効率性	5 ・ (4) ・ 3 ・ 2 ・ 1			効率的・効果的に事業実施されている。		
	町民ニーズの把握	5 ・ (4) ・ 3 ・ 2 ・ 1			直接的な把握はしていないが、生徒がボランティアや地域活動などで町に貢献するとともに、人づくりに活かされている。		
	合計		22 点				
改善を要する内容	H23より公立高校の授業料無償化による影響により、生徒数が減少しており早急な対策を検討しなければならない。						
備考	助成団体と協議しながら、支援内容をより効果的なものにしていく。						
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・(継続)・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 政策調整室

(事務事業評価用)

事業名	日本で最も美しい村推進事業	事業年度	平成17年度～				
事業目的	地域の魅力を全国へ発信し、交流人口の増加による地域の活性化を図るとともに、世界的レベルの活動を通して自立したまちづくりを推進する。						
事業概要	美瑛町の地域資源である景観、環境及び文化の保全並びにその活用を図るため、町民と共に美しい村づくり活動を推進する。(加盟村としての連合の各種会議や総会の出席、連合年会費、美瑛町日本で最も美しい村づくり協議会活動への支援など)						
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考
	歳出	総務費	総務管理費	地域振興対策費	旅費	298	千円
					需用費	19	千円
					負担金補助及び交付金	1,483	千円
	計					1,800	千円
財源内訳		国庫支出金・道支出金				千円	
		地方債(過疎)				千円	
		その他特定財源				千円	
		一般財源				1,800	千円
町民満足度	把握の有無	(あり) ・ なし		把握の対象者	町民		
	把握の対象設定の方法	全町民 ・ 事業対象者全員 ・ 事業対象者の一部 ・ その他					
	把握の手法	アンケート ・ 聞き取り ・ 窓口対応 ・ (その他)					
	把握の内容	町内での浸透状況など					
要望	要望の有無	(あり) ・ なし		要望内容	活動の推進		
評価	評価項目	評価	点	評価のコメント			
	事業の必要性	(5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1		地域の魅力を発信する手段として、また、企業等との連携による地域づくりを行う上で必要である。			
	事業効果	(5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1		連合事務局の自治体として対外的にクローズアップされ、メディア等の露出機会も多い。			
	町が実施することの妥当性	(5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1		加盟町村が会員となり、美しい村の取組みを推進する。			
	事業の効率性	5 ・ (4) ・ 3 ・ 2 ・ 1		徐々に活動が浸透しているが、更に活動を広めていく必要がある。			
	町民ニーズの把握	5 ・ (4) ・ 3 ・ 2 ・ 1		広報を通じて活動を住民にお知らせし、提案、要望等を受け付けている。			
合計		23 点					
改善を要する内容	H21年6月に年齢層、男女、職種等の幅広い異業種団体を構成した美瑛町日本で最も美しい村づくり協議会を設立し、徐々に住民意識向上と住民活動が浸透してきているが、他加盟町村と連携を図りながら、今後より一層の活動推進を図る必要がある。						
備考							
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・(継続)・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 税務課 住民税係

(事務事業評価用)

事業名	軽自動車税新課税標識の導入			事業年度	平成23年度に実施して完結			
事業目的	美しい丘陵地帯のイメージをデザインした新課税標識を導入することで、美瑛町を広くPRすることを目的とする。							
事業概要	原動機付自転車の標識1,000枚(50cc以下を800枚・90cc以下を100枚・125cc以下を100枚)							
	小型特殊自動車の標識を1,000枚 ミニカーの標識を50枚							
	合計で2,050枚の新課税標識を作成した。							
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	2	2	1	11	981	千円	
							千円	
							千円	
							千円	
	計						981	千円
財源内訳		国庫支出金・道支出金					千円	
		地方債					千円	
		その他特定財源					千円	
		一般財源				981	千円	
町民満足度	把握の有無	あり・なし			把握の対象者	新課税標識を交付した者		
	把握の対象設定の方法	全町民・事業対象者全員・事業対象者の一部・その他						
	把握の手法	アンケート・聞き取り・窓口対応・その他						
	把握の内容	窓口で標識を交付する時に新しいデザインについての評判を聞く						
要望	要望の有無	あり・なし			要望内容			
評価	評価項目	評	価	点	評 価 の コ メ ン ト			
	事業の必要性	5	4	・ 3 ・ 2 ・ 1	これまで画一的だった課税標識に対して、自治体の独自性を持たせられる。			
	事業効果	5	4	・ 3 ・ 2 ・ 1	新しい標識をつけた原動機付自転車等が町内を走行することで、観光客などの目に留まるPR効果が期待でき			
	町が実施することの妥当性	5	4	・ 3 ・ 2 ・ 1	課税標識なので町が実施主体になることは必然。			
	事業の効率性	5	4	・ 3 ・ 2 ・ 1	町職員がデザインすることでコストを抑制しつつ、製作期間も短縮し、計画から5か月で交付することができた。			
	町民ニーズの把握	5	4	・ 3 ・ 2 ・ 1	デザインについて好感触を得ている。			
	合計		21 点					
改善を要する内容								
備考								
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・ 継続 ・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合							

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 住民生活課 戸籍年金係

(事務事業評価用)

事業名	パスポート交付事業	事業年度	平成23年度				
事業目的	北海道からの権限移譲を受け、町民のパスポートに係る各種申請の負担軽減を図り利便性の向上を目的とする。						
事業概要	住民のパスポートに関する各種申請受付、及び交付事業。						
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考
	歳出	総務費	戸籍住民登録費	戸籍住民登録費	需用費	17	千円
					委託料	32	千円
					備品購入費	40	千円
						千円	
	計						89
		財源内訳		国庫支出金・道支出金		千円	
				地方債		千円	
				その他特定財源		千円	
				一般財源		89	千円
町民満足度	把握の有無	あり・なし		把握の対象者	パスポート申請者		
	把握の対象設定の方法	全町民・事業対象者全員・事業対象者の一部・その他					
	把握の手法	アンケート・聞き取り・窓口対応・その他					
	把握の内容	町内での手続きのため負担が軽減された					
要望	要望の有無	あり・なし		要望内容			
評価	評価項目	評価点			評価のコメント		
	事業の必要性	5・4・3・2・1			町民の負担軽減になり、利便性が向上する		
	事業効果	5・4・3・2・1			事業実施前に比べ、申請件数が伸びている		
	町が実施することの妥当性	5・4・3・2・1			権限移譲事務であり、住民基本台帳情報を利用するため		
	事業の効率性	5・4・3・2・1			申請等の1件当たりの処理時間が長く、他の窓口業務との兼務のため待ち時間が発生する		
	町民ニーズの把握	5・4・3・2・1			申請等の際の聴き取りで把握が出来る		
	合計		22点				
改善を要する内容							
備考							
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 保健福祉課 健康づくり係

(事務事業評価用)

事業名	健診事業(前立腺がん検診費用補助)		事業年度	H23年度～								
事業目的	①検診での早期発見による前立腺がん死亡の抑制 ②メタボ世代である50-60代男性の総合健診(特定健診、がん検診)受診者増と生活習慣病の積極的な予防を図る。											
事業概要	これまでオプション(全額自己負担)であったが、リスクが上がる50代及び遺伝歴のある40代の男性を対象に、前立腺がん検診(血液検査)の費用を他のがん検診同様費用の7割を補助する。											
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考					
	歳出	4	衛生費	1	保健衛生費	3	予防費	13	委託料	732	千円	前立腺がん検診分
											千円	
											千円	
											千円	
	計						千円					
財源内訳	国庫支出金・道支出金						千円					
	地方債						千円					
	その他特定財源						千円					
	一般財源						732	千円				
町民満足度	把握の有無	あり・なし		把握の対象者			健診受診者					
	把握の対象設定の方法	全町民・事業対象者全員・事業対象者の一部・その他										
	把握の手法	アンケート・聞き取り・窓口対応・その他										
	把握の内容	自己負担の軽減で受診しやすい										
要望	要望の有無	あり・なし		要望内容	事業の継続							
評価	評価項目	評価点					評価のコメント					
	事業の必要性	5・4・3・2・1					H21年度からオプション健診(全額自己負担)で実施し受診者の関心も高く、早期発見により治療に結び付いている例があった。リスクが上がる50-60代男性は全体の中でも健診受診を促したい年代であり、そのきっかけにもなるため。					
	事業効果	5・4・3・2・1					50～60代男性の前立腺がん検診受診数が前年より94人増加し、特定健診との併用者は171名、50-60代の新規受診は31名であり全体の受診者増に効果があった。					
	町が実施することの妥当性	5・4・3・2・1					がん検診実施主体は市町村であり、他の検診も含めて保健指導や受診勧奨が行える。					
	事業の効率性	5・4・3・2・1					事務量の増加はあるが、他の検診と同様に管理できるため、効率性は保たれている。					
	町民ニーズの把握	5・4・3・2・1					H23年度は受診率向上のための未受診者へのアンケートの実施により未受診者理由の把握に努めた。					
	合計	23点										
改善を要する内容	精検対象者の精検受診勧奨、指導。											
備考	他のがん検診も含め、がん対策基本法に基づく、検診内容、精度管理等指針の改正の											
	動向について情報収集に努め、受診しやすく効果的な検診の実施を検討する。											
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合											

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 保健福祉課 社会係

(事務事業評価用)

事業名	高齢者団体支援事業			事業年度	昭和40年度～		
事業目的	高齢者の生きがいと健康づくりに資する活動・事業の推進を通じ、明るい長寿社会の実現と保健福祉の向上に資する。						
事業概要	65歳以上の高齢者が加入している単位老人クラブ(27団体)及び老人クラブ連合会に対する運営補助						
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考
	歳出	民生費	社会福祉費	高齢者福祉費	負担金補助及び交付金	4,297	千円
							千円
							千円
							千円
	計					4,297	千円
財源内訳	国庫支出金・道支出金				821	千円	
	地方債					千円	
	その他特定財源					千円	
	一般財源				3,476	千円	
町民満足度	把握の有無	あり・なし		把握の対象者	老人クラブ会長等		
	把握の対象設定の方法	全町民・事業対象者全員・事業対象者の一部・その他					
	把握の手法	アンケート・聞き取り・窓口対応・その他					
	把握の内容	老人クラブ役員会等で把握					
要望	要望の有無	あり・なし		要望内容	継続的な運営補助		
評価	評価項目	評価点			評価のコメント		
	事業の必要性	5・4・3・2・1			ひきこもりがちとなる高齢者にとっての社会参加の場として重要		
	事業効果	5・4・3・2・1			高齢者の生きがいづくりと健康増進に効果がある		
	町が実施することの妥当性	5・4・3・2・1			単位老人クラブの運営に対する補助は必要		
	事業の効率性	5・4・3・2・1			老人クラブ連合会を通じた補助は効率的である		
	町民ニーズの把握	5・4・3・2・1			老人クラブの運営が困難となっている点についての十分な把握が必要		
	合計	21点					
改善を要する内容	65歳以上の高齢者で未加入者が増え、単位老人クラブの運営が困難となっており今後適切な対策を講じる必要がある。						
備考							
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 保健福祉課 福祉係

(事務事業評価用)

事業名	除排雪サービス事業		事業年度	平成23年度			
事業目的	ひとり暮らしの高齢者、高齢者世帯等で冬期間の除排雪が困難な人に対して、安心して在宅生活ができるよう必要に応じて、除排雪を実施することを目的とする。						
事業概要	①対象者は、自力で除雪することができず、また町内に近親者等も居住しておらず、除雪・排雪の労力などの確保ができない、65歳以上で町内に居住する1人暮らしの世帯など						
	②必要に応じて屋根の雪降ろし(居宅のみ)と雪降ろしに伴う通路の除排雪を実施する。						
	③日常的に私有地等の除排雪を行うサービスではない。						
	利用者負担(1時間当り) : 生活保護世帯・前年度町民税非課税世帯 0円						
	前年度町民税均等割のみ世帯 350円 前年度町民税所得割世帯 650円						
事業決算額	款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	民生費	社会福祉費	高齢者福祉費	委託料	512 千円	
						千円	
						千円	
						千円	
	計				千円		
財源内訳	国庫支出金・道支出金				千円		
	地方債				千円		
	その他特定財源				千円		
	一般財源				512 千円	除排雪サービス利用負担金 含	
町民満足度	把握の有無	あり・なし		把握の対象者	全町民(世帯)及び実利用者		
	把握の対象設定の方法	全町民・事業対象者全員		事業対象者の一部	その他		
	把握の手法	アンケート・聞き取り		窓口対応	その他		
	把握の内容	除排雪に苦慮している実情や、事業に対する要望など。					
要望	要望の有無	あり・なし		要望内容	除排雪実施の迅速化など		
評価	評価項目	評価		評価のコメント			
	事業の必要性	5・4・3・2・1		高齢化の進行に伴って、冬期間の除排雪に苦慮している高齢者が多く、今後さらに増加する傾向である			
	事業効果	5・4・3・2・1		高齢者世帯等で冬期間の除排雪が困難な生活弱者の在宅支援になっている			
	町が実施することの妥当性	5・4・3・2・1		高齢者福祉の推進を図る上で、町が主体となることで事業を円滑に進めることが可能であると考えられる。			
	事業の効率性	5・4・3・2・1		一度に大量の積雪があると、対象者から依頼が集中し、調整に手間を要する			
	町民ニーズの把握	5・4・3・2・1		町内全世帯を対象としたアンケート調査を実施			
合計	22点						
改善を要する内容	利用者の対象範囲や費用負担をどのように適正化するか、今後、地域コミュニティによる日常的な支援も含め協働する仕組みの構築が必要と思われる。						
備考	最近の気象変動の影響から、短時間で大量の雪が降る傾向がみられ、高齢者の方々の除排雪は地域で暮らし続けるうえで深刻な問題である。これに関連して、適正な管理がなされていない空き家の除排雪対策も深刻になっていくと想定される。						
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係)

保健福祉課

(事務事業評価用)

事業名	子ども通園センター運営事業			事業年度	継続		
事業目的	発達に遅れや障害のある子どもとその保護者へ療育や相談指導を行う						
事業概要	個別及び小集団療育指導を通して社会性や日常生活習慣の獲得を目指す 相談事業を実施し保護者の育児不安を軽減を図る						
事業決算額	款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	3.民生費	2児童福祉費	4子ども通園センター費	7賃金	195 千円	
					8報償費	110 千円	
					9旅費	40 千円	
					11需用費	243 千円	
					12役務費	65 千円	
					13委託料	12,405 千円	
			19負担金	10 千円			
	計				13,068 千円		
財源内訳	国庫支出金・道支出金				818 千円		
	地方債				千円		
	その他特定財源				125 千円		
	一般財源				12,125 千円		
町民満足度	把握の有無	○あり ・ なし		把握の対象者	通園利用契約者		
	把握の対象設定の方法	全町民 ・ 事業対象者全員 ・ 事業対象者の一部 ・ その他					
	把握の手法	アンケート ・ 聞き取り ・ 窓口対応 ・ その他					
	把握の内容	指導内容・相談・行事他について					
要望	要望の有無	○あり ・ なし		要望内容	行事実施日について		
評価	評価項目	評価点			評価のコメント		
	事業の必要性	○5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1			障害児及び障害とはいえないが発達の緩やかな子へ、早期療育を通し社会に適応する力をつける必要があるため保護者同伴の継続した指導は、子どもの困り感への理解へ繋がり大きな効果をあげている		
	事業効果	○5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1			健康づくり係、教育委員会との連携および情報の共有が必要であり、個人情報保護の面からも町が実施していく事が妥当と考える		
	町が実施することの妥当性	○5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1			保護者と相談時間を十分取り、不安を軽減する事で効率の良い指導を進められるが、家庭の都合等で継続した利用が出来ない場合は利用回数、時間等の変更を検討する必要がある		
	事業の効率性	5 ・ 4 ・ ○3 ・ 2 ・ 1			関係機関との連携により、子育てに不安がある保護者の対応についてはおおよそ把握できている		
	町民ニーズの把握	○5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1					
	合計	23 点					
改善を要する内容	子どもの発達状況を的確に捉え、日常生活での困り感を軽減するために、家庭、関係機関との連携が重要であり、療育相談、ケース会議、機関の参観等より一層充実していく必要がある。						
備考	利用児増により、子育て支援の1室を指導室に借り運営しているが、年度前半で受け入れ不可能の状況となりつつある。近い将来には、指導室増室及び指導員増員の提案も考えていかなければならない						
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・○継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調査

担当課(係) 商工観光課 観光振興係

(事務事業評価用)

事業名	自然の村管理運営事業			事業年度	23			
事業目的	キャンプ場							
事業概要	野鳥の森の西側、白金模範牧場の北に面したヨーロッパ風のケビンがある準オートキャンプ場。							
	平成21年度より開設期間を7月～8月の2か月間、今年度より高齢者事業団に委託。							
	(H23利用者1,320人、H22利用者数1,444人、H21利用者数1,696人)							
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	商工費	商工費	観光費	需用費	1,858	千円	
					役務費	220	千円	
					委託料	1,397	千円	
					使用料及び賃借料	132	千円	
	計					3,607	千円	
財源内訳		国庫支出金・道支出金				千円		
		地方債				千円		
		その他特定財源			1,712	千円	使用料	
		一般財源			1,895	千円		
町民満足度	把握の有無	あり <input type="radio"/> なし <input checked="" type="radio"/>		把握の対象者				
	把握の対象設定の方法	全町民 ・ 事業対象者全員 ・ 事業対象者の一部 ・ その他						
	把握の手法	アンケート ・ 聞き取り ・ 窓口対応 ・ その他						
	把握の内容	なし						
要望	要望の有無	あり ・ なし		要望内容				
評価	評価項目	評価		評価のコメント				
	事業の必要性	5・4・ <input checked="" type="radio"/> ・2・1		近隣町村のキャンプ場が整備されており、また同地区に野営場もあることから、休廃止も視野に入れ検討した経過がある。ただ、道内・道外に根強いファンもあり、本町の観光拠点の一つにもなっている。				
	事業効果	5・4・ <input checked="" type="radio"/> ・2・1						
	町が実施することの妥当性	<input checked="" type="radio"/> ・4・3・2・1		森林管理局から土地を賃借しており、閉鎖する場合は原状復帰する必要がある。また指定管理等については、指定管理料の額がネックなることから、町が運営することが望ましいと考える。				
	事業の効率性	5・4・3・ <input checked="" type="radio"/> ・1						
	町民ニーズの把握	5・4・3・2・ <input checked="" type="radio"/> ・1		町民利用が少ないことから、町民利用を増やすために、町民料金の設定を検討する。				
合計		14点						
改善を要する内容	自然の村キャンプ場は、年々利用者が減少してきており、利用者の負担が大きくなっていることから減額し利用者の増加を図る。							
備考	自然の家を廃業する場合については、原状復帰が条件であることから、継続しての運営が良いと考							
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・ <input checked="" type="radio"/> 見直し・一部見直し・廃止・休止・統合							

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 農林課 農業振興係

(事務事業評価用)

事業名	四季の交流館管理運営事業			事業年度	H23			
事業目的	「千代田公園の設置及び管理に関する条例」に基づき生産者と消費者の交流の場として位置づけられている四季の交流館の管理運営を行なう。							
事業概要	1階 農産物直売所(4ブース)、2階農村ふれあいセンター(展示・談話コーナーなど)							
	駐車場 75台、ピクニック広場2.5ha、遊歩道1,600m 平成8年12月オープン							
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	農林水産業費	農業費	四季の交流館費	需用費	1107	千円	消耗品費44 燃料費38 光熱水費543 修繕料482
					役務費	46	千円	通信運搬費33 手数料13
					委託料	1,272	千円	
					使用料及び賃借料	15	千円	
	計					2,440	千円	
財源内訳		国庫支出金・道支出金				千円		
		地方債				千円		
		その他特定財源			553	千円	使用料277 光熱水費276	
		一般財源			1,887	千円		
町民満足度	把握の有無	あり・なし		把握の対象者	1階ブース利用者			
	把握の対象設定の方法	全町民・事業対象者全員・事業対象者の一部・その他						
	把握の手法	アンケート・聞き取り・窓口対応・その他						
	把握の内容	近年入込者数が減少しており、物販の人員費分を売上でまかなえない状況であり、今後の管理運営について、抜本的な見直しを含め検討する必要がある。						
要望	要望の有無	あり・なし		要望内容	運営内容の検討			
評価	評価項目	評価点		評価のコメント				
	事業の必要性	5・4・3・2・1		四季の交流館の管理運営は必要であるが、拓真館の入り込み減に伴い利用者が減少しており、今後管理方法の検討が必要				
	事業効果	5・4・3・2・1		地域協議会により適切に施設の管理運営を行なっている。				
	町が実施することの妥当性	5・4・3・2・1		四季の交流館の管理運営は必要であるが、採算性からも指定管理は困難な状況				
	事業の効率性	5・4・3・2・1		施設をはじめ周辺一帯の駐車場・広場等を地域協議会に一体的に管理委託することで効率化が図られている。				
	町民ニーズの把握	5・4・3・2・1		ブース利用者の聞き取りにより把握				
合計		18点						
改善を要する内容	四季の交流館は、拓真館の入り込み減の影響から利用者が年々減少しており、1階のブース利用者についても現在1件で使用しているが、採算性などからも今後のブース開設は厳しい状況にある。現在は施設管理を地域協議会に委託しているが、今後の管理運営に関して地域と協議のうえ、管理方法の見直しや拓真館も含めた施設への集客を視野に入れた見直しの検討が必要となっている。また、1階空きブースについては施設有効利用のため、近年人気のある自転車に注目し、観光協会等と連携を取りながら自転車スタンドを設置し、新たなニーズの発掘を喚起する。							
備考	H22から拓真館の大型バス駐車場を無料化したため、これにより普通車が大型バス駐車場に駐車し、四季の交流館への入り込みが減少している。また、1階・2階とも売上が年々減少している。							
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・ <u>一部見直し</u> ・廃止・休止・統合							

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調査

担当課(係) 農林課 農業振興係

(事務事業評価用)

事業名	エゾ鹿被害防止緊急捕獲事業		事業年度	H23			
事業目的	近年のエゾ鹿の増加による農業被害が増えている状況にあるため、北海道の地域づくり総合交付金を活用し、狩猟期間中(H23.10.23~H24.3.27)においてエゾ鹿の緊急捕獲事業を実施し、農業被害の軽減を図る。						
事業概要	駆除出動日当 949,600円(400円/時間×2,374時間)						
	捕獲報奨金 2,210,000円(5,000円/頭×442頭)						
	残滓処理料 79,920円(8円/kg×9,990kg)						
事業決算額	款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	農林水産業費	農業費	農業振興費	負担金補助及び交付金	3239 千円	
						千円	
						千円	
	計					3,239 千円	
財源内訳		国庫支出金・道支出金			460 千円	地域づくり総合交付金	
		地方債			千円		
		その他特定財源			千円		
		一般財源			2,779 千円		
町民満足度	把握の有無	あり・なし		把握の対象者	被害農業者		
	把握の対象設定の方法	全町民・事業対象者全員・事業対象者の一部・その他					
	把握の手法	アンケート・聞き取り・窓口対応・その他被害調査					
	把握の内容	エゾ鹿による農業被害は、深刻で年間約7千万円の農業被害が出ており、エゾ鹿の駆除が急務となっている。					
要望	要望の有無	あり・なし		要望内容	継続を強く希望		
評価	評価項目	評	価	点	評 価 の コ メ ン ト		
	事業の必要性	5	4	3	2	1	エゾ鹿による農業被害は、深刻で年間約7千万円の農業被害が出ており、農業者からもエゾ鹿駆除の要望が特に強い。
	事業効果	5	4	3	2	1	事業実施によりエゾ鹿の駆除が進み、例年以上の駆除が実施できた。(駆除頭数442頭)
	町が実施することの妥当性	5	4	3	2	1	道の交付金の実施主体として町が猟友会への助成を行い実施する必要がある。
	事業の効率性	5	4	3	2	1	道の交付金を活用するとともに、猟友会への補助により、駆除に必要な経費を事前に協議し、効率的実施ができたが、さらに全道的なエゾ鹿駆除の取組が必要。
	町民ニーズの把握	5	4	3	2	1	被害状況調査を実施し、エゾ鹿被害の状況を把握している。
	合計	24 点					
改善を要する内容	エゾ鹿被害は、全道的な課題となっており、市町村個々の取組のみでは、駆除が困難な部分があり、全道的に一体となったエゾ鹿駆除を展開していく必要がある。						
備考	エゾ鹿の駆除については、当事業の他に中山間地域等直接支払交付金を活用した猟期外の駆除、国の鳥獣被害対策事業を活用したエゾ鹿被害防止連絡協議会が実施主体として実施した一斉駆除や射撃研修、狩猟免許の新規取得に対する町単独助成など総合的に実施しており、H23年度においては、全体で前年度の653頭を大きく上回る918頭の駆除を実施した。						
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 都市建設課 維持係

(事務事業評価用)

事業名	道路維持修繕事業			事業年度	毎年			
事業目的	町道延長696km、510路線について路面清掃、補修、側溝補修、草刈等を行い、効率的な道路の維持管理を行う。							
事業概要	・道路側溝の掘削、町道路面の補修、町道法面の補修、道路排水路の補修、草刈、清掃 ・災害に伴う交通路、排水路等の確保							
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	土木費	道路橋梁費	道路維持修繕費		113,121	千円 平成23年度決算	
							千円	
							千円	
	計					113,121	千円	
財源内訳			国庫支出金・道支出金			千円		
			地方債			千円		
			その他特定財源			千円		
			一般財源		113,121	千円		
町民満足度	把握の有無	(あり) ・ なし		把握の対象者	住民からの通報			
	把握の対象設定の方法	全町民 ・ 事業対象者全員 ・ 事業対象者の一部 ・ その他						
	把握の手法	アンケート ・ 聞き取り ・ 窓口対応 ・ (その他(パトロール))						
	把握の内容	各種補修箇所						
要望	要望の有無	(あり) ・ なし		要望内容	事業継続			
評価	評価項目	評価点			評価のコメント			
	事業の必要性	(5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1			住民をはじめとして道路利用者が安全・安心して通行できる道路環境整備が必要である。			
	事業効果	(5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1			道路利用者がストレスを感じることなく運転できる。農産物等の搬送においても効率よくかつ快適に搬送できている。			
	町が実施することの妥当性	(5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1			未改良道路の整備は進んでいるが、老朽化した改良道路の維持補修も増えてきている。また、大雨洪水等災害時の道路確保は町民の安全な通行確保として今後も重要である。			
	事業の効率性	(5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1			直営路線、地域による路線管理というふうに、色分けをして無駄なく効率的に管理を行っている。			
	町民ニーズの把握	(5) ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1			年1回各行政区からの要望・現地確認を行い予算の範囲内で優先順位ごとに整備を行っている。			
合計		25点						
改善を要する内容								
備考								
総合評価	※担当課では記入しないこと (拡大) ・ 継続 ・ 見直し ・ 一部見直し ・ 廃止 ・ 休止 ・ 統合							

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 農業委員会 庶務係

(事務事業評価用)

事業名	アグリパートナー協議会負担金	事業年度	H23				
事業目的	本町の基幹産業である農業の担い手対策として各種事業を実施し、農業経営体の育成・維持を図る。						
事業概要	農業担い手対策として農業者及び農業後継者の配偶者確保を目指し、パートナー紹介事業、富良野地方アグリパートナー協議会との連携事業、農村花嫁対策事業(結婚後のフォロー策)、本町独自イベント事業等を実施						
事業決算額	款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	農林水産業費	農業費	農業委員会費	負担金補助及び交付金	1050 千円	
						千円	
						千円	
						千円	
	計					1,050 千円	
財源内訳		国庫支出金・道支出金			千円		
		地方債			千円		
		その他特定財源			千円		
		一般財源			1,050 千円		
町民満足度	把握の有無	(あり)・なし		把握の対象者	イベント参加者		
	把握の対象設定の方法	全町民 ・ 事業対象者全員 ・ (事業対象者の一部) ・ その他					
	把握の手法	アンケート ・ (聞き取り) ・ 窓口対応 ・ その他					
	把握の内容	イベントについての感想					
要望	要望の有無	(あり)・なし		要望内容	事業の継続		
評価	評価項目	評価	点	評価のコメント			
	事業の必要性	(5)・4・3・2・1		農業担い手(後継者)の確保対策として、出会いの場を提供することが必要である			
	事業効果	(5)・4・3・2・1		参加者との交流から数組のカップリングに成功している			
	町が実施することの妥当性	(5)・4・3・2・1		担い手対策として継続することが必要であり、関係機関と協力していかなければならない			
	事業の効率性	5・(4)・3・2・1		近隣市町村と合同で実施している			
	町民ニーズの把握	(5)・4・3・2・1		参加者へのアンケート実施			
合計		24 点					
改善を要する内容	応募者が減少傾向にあり、周知や広報について検討要する						
備考	H23イベント夏カップル成立率0%、H23イベント冬カップル成立率40%						
総合評価	※担当課では記入しないこと (拡大) 継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 学校教育課 総務係

(事務事業評価用)

事業名	学童保育管理運営事業		事業年度	平成4年～				
事業目的	美瑛東小学校の児童で、放課後、帰宅しても保護者等が就労などにより家庭が留守となるため保護指導が受けられないことを常態としている児童を対象に学童保育を行う。							
事業概要	開設時間：通常は、下校時から午後5時まで 土曜日及び長期休業中は午前9時から午後5時まで							
	平成23年度開設日数 294日 延べ利用者数9,320人(1日平均31.7人)							
	主事1名(校長)、主事補1名(教頭)、指導員4名による指導							
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	総務費	総務管理費	職員給与費	給料・職員手当等・共済費	5,011	千円	
		教育費	教育総務費	学童保育費	賃金	3,256	千円	
					旅費・需用費・役務費	194	千円	旅費21需用費74 役務費99
		計				8,461	千円	
	財源内訳	国庫支出金・道支出金				5,460	千円	
地方債					千円			
その他特定財源					千円			
一般財源				3,001	千円			
町民満足度	把握の有無	あり・なし		把握の対象者	保護者			
	把握の対象設定の方法	全町民・事業対象者全員・事業対象者の一部・その他						
	把握の手法	アンケート・聞き取り・窓口対応・その他						
	把握の内容	お迎えの時に保護者に児童の様子を伝え、要望等を聞き取りしている。						
要望	要望の有無	あり・なし		要望内容	保育時間の延長、自転車通学			
評価	評価項目	評価	点	評価のコメント				
	事業の必要性	5	4・3・2・1	共稼ぎ世帯が増えていることから事業希望者も増えている				
	事業効果	5	4・3・2・2	保護者が安心して就労することができる				
	町が実施することの妥当性	5	4・3・2・1	町あるいは社会福祉法人などが事業主体となりうるが、現段階では町以外の受け手はない				
	事業の効率性	5	4・3・2・1	土曜日は交代制にするなど効率的な運営を心がけている				
	町民ニーズの把握	5	4・3・2・1	各種行事に対するアンケートを実施し、改善に向けている				
	合計	22点						
改善を要する内容	1～3年生と4～6年生の2クラスにし、指導員4名と臨時指導員1名で、利用する児童に応じた支援体制強化を図っている。							
備考								
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合							

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 生涯学習課 生涯学習係

(事務事業評価用)

事業名	人づくり育成事業	事業年度	23				
事業目的	活力と魅力に満ちたまちづくりを推進するための人材育成						
事業概要	①青少年少女道外研修 3,316,645円 ④中之条大学事業視察 96,010円						
	②市民後見人養成講座参加事業 126,000円						
	③小樽商科大学マンドリン演奏会開催事業 199,328円						
事業決算額	款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	教育費	社会教育費	生涯学習推進費	旅費	432 千円	
					需用費	21 千円	
					負担金補助及び 交付金	3,285 千円	
						千円	
	計					3,738 千円	
財源内訳		国庫支出金・道支出金			千円		
		地方債			千円		
		その他特定財源			3,443 千円		
		一般財源			295 千円		
町民満足度	把握の有無	あり・なし		把握の対象者	研修参加者		
	把握の対象設定の方法	全町民・事業対象者全員・事業対象者の一部・その他					
	把握の手法	アンケート・聞き取り・窓口対応・その他					
	把握の内容	報告書及び復命書の提出等					
要望	要望の有無	あり・なし		要望内容	継続希望		
評価	評価項目	評価	点	評価のコメント			
	事業の必要性	5	4・3・2・1	町民の視野拡大、人材育成及び今後の本町のまちづくりのために必要である			
	事業効果	5	4・3・2・1	青少年少女道外研修では、研修前後で参加者の言動に変化がみられる。市民後見人養成では少子高齢化社会に対応した知識が習得できた。			
	町が実施することの妥当性	5	4・3・2・1	社会教育事業の一環として妥当である。			
	事業の効率性	5	4・3・2・1	エージェント数社からの聞き取り、見積合せにより、内容の充実を図っており効率的な事業運営である。			
	町民ニーズの把握	5	4	3・2・1	事業実施後のアンケートや社会の動向等により、ニーズの把握に努めている。		
	合計		24 点				
改善を要する内容	本事業に対する町民の理解を促すとともに、積極的活用を広く周知する必要がある。 現在は、広報誌での周知にとどまっている。						
備考							
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大 ・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課(係) 美瑛町立病院

(事務事業評価用)

事業名	人間ドック・生活習慣病予防健診等事業		事業年度	平成7年度～			
事業目的	生活習慣病と言われている「肥満、高脂血症、糖尿病・高血圧・がん」などは初期の自覚症状はほとんど見られませんがさまざまな病気や、合併症を引き起こすと言われていています。 人間ドックでの目的は、毎日の生活習慣の見直しを受健者の方と御一緒に考え、病気の予防に役立てる事です。						
事業概要	毎週木曜日(午前)を健診指定日として実施(年間967名) ■人間ドック 143名 項目 身長・体重・腹囲・血圧・尿・血液・X線・胃カメラ・腹部エコー・心電図・視力・聴力・眼底・肺活量・便等 ■特定健診 22名 項目 身長・体重・腹囲・血圧・尿・血液・心電図等 ■事業所健診 13名 項目 身長・体重・腹囲・血液・尿・X線・視力・聴力 ■学校等健診 789名						
事業決算額	歳出	款	項	目	節	金額	備考
		病院事業費	医業費用			3,342 千円	
						千円	
		計				千円	
		財源内訳	国庫支出金・道支出金			千円	
		地方債			千円		
		その他特定財源			千円		
		一般財源(医療相談収益)			3,342 千円	医業収益	
町民満足度	把握の有無	あり・なし		把握の対象者	健康診断申込者等		
	把握の対象設定の方法	全町民・事業対象者全員・事業対象者の一部・その他					
	把握の手法	アンケート・聞き取り・窓口対応・その他					
	把握の内容	食事内容への評価など					
要望	要望の有無	あり・なし		要望内容	受診内容及び機会の増		
評価	評価項目	評価		コメント			
	事業の必要性	5・4・3・2・1		健康診断は、健康で暮らせるための第1歩であり、自己の心身の現状を正しく理解することで、その後の日常生活での健康に対する意識付けとなる。			
	事業効果	5・4・3・2・1		疾病の早期発見・早期治療は、医療費の抑制となるだけでなく、住み慣れた自宅で安心した生活を続けることができる。			
	町が実施することの妥当性	5・4・3・2・1		総合的な健診を実施することができるのは美瑛町立病院だけである。自治体病院として、町民に良質な医療を提供し、生命と健康を守る使命がある。			
	事業の効率性	5・4・3・2・1		医師不足のため健診日は週に1度しか設けることができず、常勤医1名が最大限の受け入れを行っている。			
	町民ニーズの把握	5・4・3・2・1		身近な病院で健康診断を受けることができるメリットは大きく、特に本年度から開始した「脳ドック」の問い合わせや、健診機会についての照会があるが、外来・入院診療と合わせて対応できる医師の確保に限界がある。			
	合計	24点					
改善を要する内容	現状では、週に一度しか健康診断を受けることで不十分、ほぼ満員の状況である。 地方の医師不足は深刻な状況であるが、健康診断においても利便性の確保のためには、医師の確保が大きな課題です。また、医療機器の更新による健診メニューの追加を積極的に検討する。						
備考	H22年度評価で検討した健診項目の追加について、MRI装置の更新に伴い「脳ドック」をH24から追加(H24年4月～8月実績は104件)しております。						
総合評価	※担当課では記入しないこと 拡大・継続・見直し・一部見直し・廃止・休止・統合						

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 都市建設課 建設係

(公共事業評価用)

事業名	北瑛旭第6線線道路改良舗装事業							
事業年度	23年度～	29年度	事業実施場所	美瑛町字北瑛第3				
事業目的	北瑛地区と国道452号線を結ぶ重要な路線である。近傍に観光名所があり多くの観光客が訪れる路線であるが、道が狭いため交通の支障となっている。本路線を整備することで安全で円滑な交通の確保と地域の活性化を図ることを目的とする。							
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	土木費	土木管理費	道路新設改良費	委託料	31,784	千円	平成23年度決算
					工事請負費	0	千円	
					公有財産購入費	59	千円	
					補償補填及び賠償金	5	千円	
								千円
							千円	
	計					31,848	千円	
財源内訳			国庫支出金・道支出金			20,700	千円	平成23年度決算
			地方債			10,500	千円	
			その他特定財源				千円	
			一般財源			648	千円	
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 650,000千円÷延長 2,600 m = 250千円						
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 千円÷面積 ㎡ = 千円						
事業コストが高くなる理由								
評価	評価内容	評価		点			評価のコメント	
	事業の必要性	5	4	3	2	1	観光客が訪れる路線であり、狭い道幅のため交通に支障がある。	
	事業効果	5	4	3	2	1	安全で円滑な交通が確保できる	
	社会情勢等変化への対応	5	4	3	2	1	道路利用者が快適に運転できるばかりでなく、農作物等を効率的に搬送できる。	
	事業の効率性	5	4	3	2	1	この事業は地方道路整備臨時交付金を活用し、また、費用対効果も検証済みである。	
	町民ニーズの把握	5	4	3	2	1	地域要望により事業実施。観光団体からのニーズの把握	
	合計			25			点	
改善を要する内容								
備考	全体事業費 650,000千円							

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係 水道課 庶務係

(公共事業評価用)

事業名	下水処理場整備事業(改築・更新)							
事業年度	20年度～	25年度	事業実施場所	美瑛町				
事業目的	下水処理場は昭和61年に生活環境の改善及び公共用水域の水質保全を目的に一部供用を開始し、初期供用開始施設の内老朽化の著しい施設を対象に改築・更新を行い機能維持を目的とする。							
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	下水道事業費	事業費	建設事業費	委託料	249,309	千円	
							千円	
							千円	
							千円	
							千円	
計					249,309	千円		
財源内訳			国庫支出金・道支出金		136,932	千円		
			地方債		100,800	千円		
			その他特定財源			千円		
			一般財源		11,577	千円		
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費			千円÷延長	m =	千円	
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費			千円÷面積	㎡ =	千円	
事業コストが高くなる理由								
評価	評価内容	評価		点			評価のコメント	
	事業の必要性	⑤・4・3・2・1					住民ニーズの高い生活排水改善・水洗化のため終末処理場としての機能維持が必要とされる。	
	事業効果	⑤・4・3・2・1					居住環境の改善及び河川の公共用水域の水質保全が図られる。	
	社会情勢等変化への対応	⑤・4・3・2・1					年々水洗化等利用者が増加傾向にあり十分対応できている。	
	事業の効率性	⑤・4・3・2・1					社会資本整備総合交付金を活用し整備。	
	町民ニーズの把握	⑤・4・3・2・1					もともと住民アンケート及び広報誌により周知徹底し事業を実施。	
合計			25			点		
改善を要する内容								
備考	20年度120,300千円、21年度164,300千円、22年度214,000千円、23年度249,309千円							
	全体事業費1,198,000千円							

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり

平成24年(平成23年度事業) 美瑛町まちづくり評価調書

担当課係

生涯学習課

(公共事業評価用)

事業名	図書館建設事業							
事業年度	22年度～	24年度	事業実施場所	美瑛町幸町1丁目1-10				
事業目的	町民の学習機会の創出や文化活動支援を行い、また良好な学習環境とコミュニティーの場を設け、快適で利便性の高い図書館の新築を行う。							
事業決算額		款	項	目	節	金額	備考	
	歳出	教育費	社会教育費	図書館及び郷土資料館費	需用費	1,742	千円	
					役務費	142	千円	
					委託料	4,095	千円	
					工事請負費	434,590	千円	
					備品購入費	6,842	千円	
							千円	
	計					447,411	千円	
財源内訳			国庫支出金・道支出金			144,797	千円	
			地方債			276,300	千円	
			その他特定財源				千円	
			一般財源			26,314	千円	
事業コスト	道路等の場合	(m当りの事業コスト) 事業費 千円÷延長 m = 千円						
	建築物等の場合	(㎡当りの事業コスト) 事業費 434,590千円÷面積1,099㎡ = 395千円						
事業コストが高くなる理由								
評価	評価内容	評価	点	評価のコメント				
	事業の必要性	⑤・4・3・2・1		昭和38年に建築された現在の図書館は建物、設備等の老朽化が進み、その劣悪な環境から利用者や貸出冊数の減少が続いている。				
	事業効果	⑤・4・3・2・1		近隣図書館の状況では、新築及び改築に伴う利用者、貸出冊数の増加は30%を超えていることから、本町においても利用者の拡大が見込まれる。				
	社会情勢等変化への対応	⑤・4・3・2・1		・利用者のインターネットを介したきめ細かな蔵書検索に対応。 ・インターネットや視聴覚設備も併せて整備する。				
	事業の効率性	⑤・4・3・2・1		過疎債の活用により財政の効率化が図られた。				
	町民ニーズの把握	5・④・3・2・1		図書館協議会の開催により町民ニーズの把握に努めている。				
合計			24点					
改善を要する内容	町民ニーズの把握方法として、広報誌折り込みによるアンケート配布を行ったが回収率が3%と低調であったため、今後はより効果的なニーズの把握に努める必要がある。							
備考								

※ 評価のめやす 5=問題なし 4=ほぼ問題なし 3=検討の必要あり 2=やや改善の必要あり 1=改善の必要あり